

ふどかし子の眼にとまったのが、その箱
でした。チリメンの赤い布ぬのが、ひどくき
れいでした。布だけがきれいにみえまし
た。

かし子は、その箱はこから、布だけをはぎ
とりました。はぎとつた布を手にかざし
てみると、うす暗い部屋へやの中で、その布
は、とてもりつたがらものばな宝物にみえました。

外出から帰つてきた養母ようぼは、布をはぎ
とられて部屋へやのすみに投げ捨すてられた厚
紙がみの箱をみつけました。

「まあ、なんてことをするの、この子は。

